



自分たちで製作した鬼のお面を付けて「豆まき」をしました。(幼稚園での様子)



節分にちなんで、2日(水)に全園児による「豆まき」を行いました。

10時になり、クラスごと園庭に集合しました。一番早かった学年は「年長組」さん、やる気満々です。それぞれが頭に自分たちで製作した「鬼のお面」を付け、園舎東側のベランダに座って待っています。他の学年も集合すると、園庭中央に引かれた円いラインに沿って並び、いよいよ始まりです。



進行役の亜沙美先生から、始まりの言葉があり、次に園長先生のお話です。「みんなの心の中にある『意地悪をする鬼』『すぐ泣いてしまう弱虫の鬼』『すぐに怒ってしまう怒りん坊の鬼』などを追い出しましょう」というような話がありました。「節分」と「豆まき」については、「季節の分かれ目：節分」は邪が入りやすく、特に旧暦では立春のころは当時の新年の始まりだったため、最も大切な節目とされ、そこで「鬼を追い払う邪気祓いの行事」として「豆まき」が始まったのだそうです。

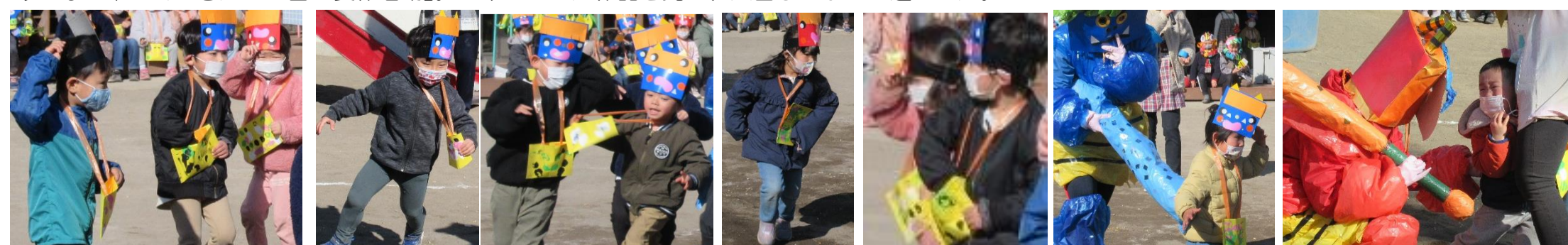


いよいよクラスごとの「豆まき」の始まりです。子ども達が先生と一緒に準備を始めました。(子どもたちの頭には色とりどりの「鬼のお面」がつけられ、また首からは「豆入れ」が下げられました。3学期に入り、今日のために各クラスで製作したものです。)

年少組のお面は、四角の工作紙に、子ども達が目をつぶって「目」「鼻」「口」などのパーツを貼り付けました。いろいろな位置にパーツが貼られたため、「とても面白いオリジナリティ溢れる表情のお面になった」と、年少組の先生方が言っていました。「豆入れ」は、黄色い画用紙を2つに折り、フチを糊で貼り合わせて作りました。特色は「デカルコマニー」といって、豆入れを半分に折り、その片方に絵の具を塗りつけ、もう一方を重ねて絵の具を転写させる方法を使ったことです。子どもたちにとって初めての経験で、楽しい絵画遊びとなったようです。



「つぼみ組」のお面も、年少組と同じものを作りました。事前に先生が作ってくれた「目や鼻・口」などのパーツは、自分で好きな場所に貼りました。髪の毛を貼るために「両面テープ」を使ったのですが、自分で剥がして貼ることができたのは素晴らしいと感じました。「豆入れ」は、市販の「茶色の紙袋」に、画用紙をちぎったものを貼り付けてオリジナルの模様になるような工夫をしました。袋にリボンを付け、首から下げられるようにしました。みんなで楽しくできた「お面の製作活動」。出来上がった作品を見て、大喜びの子ども達でした。





年中組のお面は、子ども達がハサミを使って画用紙を丸く顔の形になるように切りました。そして、好きな色の絵の具で顔の部分塗りしました。驚いたのは、「自分たちで水の入れ具合を調節して適切な濃度になるように薄めることができた」ことです。今までの「絵の具遊び」などの活動の成果が発揮されていると感じました（スゴイね）。「目や鼻・口」などのパーツ（先生方が愛情を込めて作った物）も、自分で位置を考えて貼ることができました。同じ材料で作ったのですが、「面白い顔」「怖い顔」など、一人ひとり違う、表情豊かな鬼に仕上がりました。「豆入れ」は、大きめの紙コップを使用しました。表になる部分は、クレヨンを使って「お多福」の顔を描きました。後ろ（背中）の部分もクレヨンで好きな模様を描き、さらに「好きな模様のシール6枚」を選んで貼り付けました（6枚きちんと数えることができた）。



年長組のお面は、「顔がお面から出るように」工作用紙の中心が円くり抜かれています（子ども達は、外側の部分だけハサミを使って切り、中央のくり抜いた部分は先生方が担当しました）。顔の部分につける「角」や「眉毛」などのパーツは、好きな色画用紙を使い、自分で形を描きハサミで切って作りました。顔の周りには「たくさんの飾り」が付けられていたのですが、それも自分で色画用紙を切って輪にしたものを両面テープで貼り付けたそうです。手が込んでスゴイと感じました。輪の飾りも、絵の具やカラーペンを使って絵を描いたり模様をつけたりしていました（中には、指スタンプを押す子もいて、その発想の豊かさに驚かされました）。「豆入れ」は牛乳パックを使用していました。側面は、折り紙をちぎって模様をつけるだけでなく、「鬼の顔」を油性ペンで描いてありました。



「豆まき」の始まりです。園庭には、「怖そうな青鬼・赤鬼」が子どもたちをにらんでいます。クラスごとに、豆を投げて鬼を退治します。「さくら組⇒ゆり⇒うめ組⇒もも組⇒つぼみ組⇒ひまわり組⇒あさがお組」の順に「豆まき」をしました。鬼に追われ逃げまどう子どもたち。鬼の「意地悪する子はだーれだ！」「ウソをつく子はいないか！」という怖い声にビビりまくる年少さん達。怖さのあまり、先生に抱きつく子も。しかし、先生方の「鬼は外」のかけ声で逆襲の始まりです。持っている豆を鬼めがけて投げつける子どもたち。さすがに年長さんの多くはビビることなく、鬼に近づいて投げつけます。これには鬼も思わず、「痛い！」の声。鬼も少しずつ弱っているようです。最後は多勢に無勢、子どもたちの勝利でした。

豆まきの後は、クラスとの記念撮影をしました。

